

長畝ふるさと通信



【2022年6月号】

■ 西からの侵略者



各地で史上最短の梅雨となり、水不足が今から心配されているとか。佐渡も6月15日に梅雨入りしてからほとんど雨が降っていません。高温が続き、苗の分けつが進みすぎており、中干を徹底しています。そんな折、佐渡の西側の海から数百羽のウミネコが遥々長畝の田んぼまで飛来しています。海より田んぼの方が簡単に餌にありつけることを学んだようですが、先住民のサギやトビやトキは大迷惑です。まさに侵略戦争、餌資源と領土の奪い合いです。人間界ではウクライナ戦



争が長期化し、燃料や食糧品が続々と値上げされ庶民の生活を苦しめています。その中であって唯一、コメは値上がりしていないのです。来年使う肥料や農業機械も高騰し、生産原価は上がる一方でこのままでは百姓の大量離脱が発生するでしょう。参院選を前に「あれもやります。これもやります」と威勢の良い先生方、本当にやれるんかい！

3年ぶりの農業実習

コロナで中止していた東京農業大学の農業実習を3年ぶりに再会しました。組合で受け入れた3人はラグビー、サッカー、野球といずれも体育会系で「体力には自信があります」アピールをしてきましたが、現代の稲作は機械化が進み体力勝負ではなく、むしろ忍耐力が必要だと説いてやりました。田面ライダーにまたがって溝切作業は楽しそうにやっていたようですが、ハウスの草取りや田植えの補植、柿の摘果作業など地味系作業になると実につまらなそう・・・正直というか何というか・・・現代っ子ですわ。「おコメは大好きです」という割にはそれほどコメを食べていない若者たち。コメを食べるのはもっぱら外食で自炊はしないとか・・・彼らの子孫はどんな食生活をするのだろうか。日本人のコメDNAが絶えてしまうかと心配です。



実習の最終日には実習生16名と受入農家で草刈アートに取り組みました。学生たちに何という文字を描くか話し合ってもらったところ、ウクライナ戦争という時節柄、「PEACE(平和)」となり、文字のバランスを図るために巻き尺を使って計測までしたのですが、1時間かけて出来上がりは御覧の通り文字間隔や大きさもバラバラ、「それぞれの班の個性が出ましたね」とはゼミの教授の弁。夜の打ち上げBBQは大変な盛り上がりで、やはり若者たちとの呑み会は楽しいです。

■ 生きものたちの聖地



佐渡の最高峰「金北山」のふもとにある「長江」地区へキッズ生きもの調査隊で生きもの調査に出かけました。平野部では滅多にお目に係れない「アカハライモリ」や巨大な「オニヤンマのヤゴ」などがいとも簡単に現れてくれます。まさに生きものたちの「聖地」です。勾配のキツイ小さな山田

が山から流れてくる潤沢な用水で繋がっているからこそこの世界です。ところが地元の生産者にお話を聞いたところ、来年から大規模な基盤整備が始まり、この風景が見られるのは今年限りだそう。責任のない第三者からすると実に残念ではありますが、地元にとっても複雑な想いがあることでしょう。コメは年々作れなくなっていくというのにまた一つ大切な原風景が無くなる。



■ ITは何をもたらすのか

最近、農業分野でも盛んに「IT」が導入されています。ドローンによる農薬散布やGPS機能搭載の大型農業機械、スマホで田んぼの水管理までやれる時代です。柿の園地や除草剤を散布しない有機栽培の田んぼでは一日中、機械が勝手に草刈りや草取りをしてくれる。こうしたロボットを使うことで生産者の労働負担を軽減する代わりに、大規模化していく方向ではありますが、一方で子供たちが一生懸命汗をかいて手取り除草する姿もあるのです。大学生たちにとって農業はまだ「キツイ仕事」というイメージがあるようですが、次世代では「農業はロボットがやるもの」になっているかもしれません。人間にとって食糧生産は普遍的なものだと思込んでいましたが、未来の食糧はどうなっているのだろう。もしかしたらコメや小麦なんて食べない時代が来るのかも・・・



● 左は自然栽培の田んぼで子供が除草機を押しているところです。この作業は単に雑草の除去ではなく、田面を攪拌することで空気中の窒素を苗に供給する役割もあります。自然栽培は肥料分も一切加えない栽培方法なので、土中の養分と空気中の窒素成分が唯一の栄養素です。



泥だらけの手で昨年自分たちで作ったコメを又力釜で炊飯したおむすびを美味しそうに頬張る子供たち。大人になっても記憶の片隅に残しておいてほしい光景です。



■ 令和4年産米も引き続きご愛顧ください

7月末には令和4年産米の年間会員予約注文をご案内いたします。よろしくお願いいたします。

毎度、おかわりは自由です。